

迷っていた あなた
今がチャンスです

企業人のアドバイスは
研究の幅を広げます

5年一貫プログラムは
しんどいかもしれない
でも、かけた時間に
ウソはない

自分を超える
未来をつくる

第2期生・3期生募集

博士課程教育 超創人財 育成プログラム

■ 応募期間

2021年1月6日(水)~3月8日(月)

募集説明会実施

第1回 12/21(月) 12:20 ~ 12:50

第2回 1/15(金) 12:20 ~ 12:50

第3回 3/1(月) 12:20 ~ 12:50

【参加 ID/PW】

ミーティング ID:970 0227 2056 パスコード:155287

※どなたでも参加可能です。

今、世間が求めている人材

それは
グローバルな流れを
俯瞰できる人

研究に打ち込んでいる
あなただからわかる
社会とつながることの意味

このプログラムには
それを実現できる時間と場所があります

■ 応募資格

以下の研究科に所属する博士課程前期課程もしくは博士課程(一貫制)

スポーツ健康科学研究科、情報理工学研究科、理工学研究科、
生命科学研究科、薬学研究科(薬学専攻)、経済学研究科、
文学研究科(地理学専修)、人間科学研究科、先端総合学術
研究科、テクノロジー・マネジメント研究科、経営学研究科

[2期生相当]

2021年度に2回生になる者。

※薬学研究科については、2021年4月に入学する予定の者

[3期生相当]

2020年9月に入学した者、あるいは2021年4月に入学する予定の者

※薬学研究科をのぞく

■ 応募書類

①エントリーシート(所定様式)：プログラムHPにて配布

②TOEIC®L&Rテスト スコア：(2年以内に取得したものに限り)

※TOEIC®L&R IP、TOEFL ITP®テストも可

③成績証明書 原本(既卒者は、最終学校の成績証明書。卒業見込者
は2020年度春 semester までの成績証明書。)

■ 応募方法

【窓口】大学院課(BKC)

【郵送】〒525-8577 滋賀県草津市野路東1-1-1

立命館大学 大学院課 超創人財育成プログラム担当宛



社会にイノベーションを起こす

先駆者になろう

人生 100 年時代

豊かな社会の実現は、私たちの大きな希望です。
時代を先導する新しい分野『アクティブライフ』は
この希望を実現するための重要な鍵であり、
あらゆる分野に広がるフィールドです。
専門知識に根ざした発見は、
社会や未来に変化と
新たな価値を生み出します。

私たちは、社会と融合し、未知なる課題に
挑戦する博士人財を育成します。

プログラムの 4 つのポイント

- ① 企業との連携…企業から学び、企業とともに研究する。
- ② サブメジャーとしての研究分野…専門性と柔軟性を持った研究力を養成。
- ③ 異分野・異文化・異世代との連携…異なる分野、文化、年代の人々とつながる、価値観と視野を広げる。
- ④ キャリア支援…企業・団体に直接コンタクト。
受講生のみならず、充実した支援。

産業界から学ぶメリット

- ◆ プロジェクトゼミナール
ゼミ形式で企業人から得た、『知識』『経験』『ネットワーク』
を研究に応用
- ◆ 異分野・異世代セミナー
地域・行政・企業から提供された課題を元に、他研究科院生、
高校生で構成されたグループワークで学ぶ。
- ◆ 課題解決型長期実務実習
企業の課題解決に長期間取り組む実習
- ◆ イノベティブ・アントレプレナー実習
他研究分野の受講生と企業（仮想）を運営し、新事業開発に挑戦

アクティブライフ文化超創コンソーシアム

超創人財育成プログラムを支援するために、産官学地の
様々な業種が集結し 2018 年 7 月に発足。
人財の育成および輩出と、異業種連携によるイノベーシ
ョン創出を目指して活動中。活動報告は HP にてご確認
ください。

※2020 年 12 月時点で 34 企業・団体・行政が加盟中。

詳しくは HP で⇒ <http://www.ritsumeai.ac.jp/gr/aldp>

受講生からのコメント

現在、大学発ベンチャーを立ち上げる
事を計画しています。
連携企業からのアドバイスにより、
研究成果の事業化に向けた用途発案の
重要性など、気づかされることが多く
あります。
(情報理工学研究科 前期課程 1 回生)



大学院で研究しているだけでは、ビジ
ネスの視点を持った現状分析や課題形
成を行う機会がないので、新鮮な学び
を得ています。
(スポーツ健康科学研究科 前期課程
1 回生)

僕にとって、超創人財育成プログラムを
受講することは、挑戦でした。
企業の方にメンター教員となってもらい、
日々様々な学びを得ています。
(理工学研究科 前期課程 1 回生)



企業の方から、大変良いアドバイスを
もらっている。
自分の研究だけではなく、将来をどの
ように送ったらいいのかも、考える良
い機会となっている。
充実した日々を過ごしているので、
学びは大変だが、満足している。
(スポーツ健康科学研究科 前期課程
1 回生)

連携企業様からのコメント



本プログラムに大きな可能性を感じて
います。
過去に成功体験にとらわれる事なく、
『教育イノベーション』が生まれるよう
協力していきたいと思っています。
(生命保険系)

日本における『大学』と『企業』との
人材育成のモデルとなるよう、企業内
研究所に従事している者として、協力
できればと考えています。
(大手電機メーカー)



研究シーズの事業化をマーケティング
の視点で見据え、研究とビジネスを結
びつけるものの見方・考え方を学生の
皆様に共有できればと考えています。
(大手研究機関)